

10歳 青春まっしぐら

今回は、南川岸の早川和子さん（十九歳）の登場です。勤め先は近くなんで



すか？ 芝山の会社で事務員をしています。仕事は、朝八時二十分から五時二十分までです。車で通っているんですが、だいたい三十分ぐらいかかりますね。

てきばきと話す早川さんは、去年買った車で毎日通っているそうです。週休二日制とお聞きしましたが、休みの日はどうお過ごしですか？

しあわせな家庭を… 早川和子さん（南川岸）

冬はスキーに、夏は旅行に必ず出かけるという早川さん。仕事に興味に忙しい十九歳。ただ今青春まっしぐら！

みの日なんかは、友だちとテニスをしてることが多いです。と話す早川さん。中学校のときには全国大会にも出場したことがあるそうです。

これからの目標は？ 仕事をしっかりやって、早くすきな人を見つけて、しあわせな家庭を……という気持ちもありますし、三十歳ぐらいまでは一人でいたいとも考えています。

必らず出かけるという早川さん。仕事に興味に忙しい十九歳。ただ今青春まっしぐら！

大総中学校の昼休み、一輪車に乗って遊ぶ子どもたちの元気な声が大空に響く。

「五月の中旬に、父兄の伊藤清治さん（姥山）から一輪車を十台寄付していただきました



10歳 大総小学校の一輪車

の後学校で購入したりして、今では二十六台の一輪車が、大総小学校の校庭せましと走り回っています。

一輪車部隊勢ぞろい

子どもたちが一輪車に乗るのは、主に昼休みの時間。給食を食べ終るとさっそく校庭へ出て、一輪車を乗り始めます。

「子どもたちの健康づくりや仲間づくり、また運動神経、反射神経を養うのに最適です。体育の先生も、子どもたちと一緒に始めたいですが、覚えるのは子どもたちの方が早いみたいです」と校長先生は満足気でした。

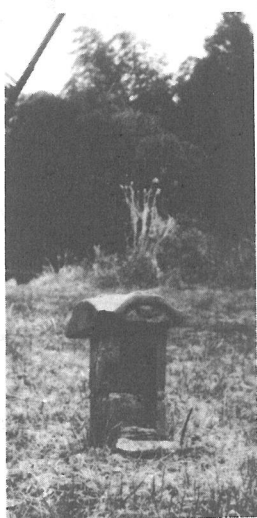
健康づくり、仲間づくりに役かっている一輪車。今日も子どもたちは、昼休みを楽しみにしています。

そうした道祖神を訪ねているうちに、ある畑の中で、置き忘れられたようにポツンと佇む一つの祠を見かけました。その祠は、中将棋の駒の形に彫り刻まれ、天蓋の下には駒形明神の刻名があるだけに、他にはなにも刻まれていません。余り近所の人々にも知られていない模様でしたが、いろいろお伺いしたことを総合すると、「この祠の前には、後の竹林の辺りを通ってくる旧街道があつて、昔から道端に建っていた。それは道祖神で、祠の中の駒形は主尊ではないか」ということになるようです。

昔の陸の交通は、自力と馬だけだった訳です。そうしたことから、道中に緑のある駒の姿を道祖神の祠に形造ったのであろう」というのは私の故事づけに過ぎないかもしれませんが……

と幼いころ育った、東京の練馬を思い出しました。そのころ、近くに、さいの神と呼ぶ将棋の駒の形をした石の祠が建っていて、正月の松の内が過ぎると、門松や正月飾りなどを焼却して、その火で餅を焼いて食べたりしました。その後各家庭から、くも形様という一方に五ヶ程の藁の突き出た太繩の直角に曲がったものを奉納する風

習がありました。幼な心に「太繩が雲で、突き出ている藁は、雲が風を切っている様子」と考え、いままでもそう思っていたのですが、これが長年の誤りであったことや、横芝町の他の道祖神の祠にも、駒の形が存在することに気がつきました。雲形と想っていた太繩は駒で、突き出た藁は駒の立髪だったのです。



▲畑の中に建っている道祖神様 祠の中に駒形の切り込みがみえます

横芝町文化財審議会委員 小沢春光さん寄稿